

# 中白ニユース

シネスコ版

No. 554

高新 389  
新巻 217

## 一、五輪聖火、東京へスタート

——ギリシア

ギリシアの聖地、オリンピア——。

八月二十一日、この聖地で、東京オリンピックの序典、採火式がおごそかに行なわれまし  
た。この日コンスタンチノス二世がはじめて、この式典に参列、まずクーベルタン記念碑に  
ゲッケイシュの花輪をささげたのち式典会場の古代オリンピック競技場遺跡へ——。

その頃、聖なる禁園、ゼウスの神域では、主、アンカ・カッツェリ夫人が東京五輪の成功  
を祈つて朗々とゼウスに祈り、ついで集光器に結んだギリシアの太陽の火を火ザラに点火。  
やがて、カッツェリ夫人ら火ザラをささげたミコの行列が式場へ進みます。

そして、国王、ギリシア、日本代表が見守るうちにトーチに聖火が移され、そのトーチが  
国王にささげられます。ついで、国王から第一走者マルセロス選手に聖火がさすけられ、こ  
こに聖火はオリンピアを出発。

こうして、ギリシアの町から村へと各走者に引きつがれ、一路東京へ、平和の火は走り出  
したのです。

カメラ・ルポ

## 一、ひとりぼっちの開拓者

——秋田

農業構造改善がさげばれ、近代化の具体的なプランが出来あがりつつある今日も、農村を  
捨てて都会へ出てゆく若者はあとをたたない。いや一家の主までがそうである。

将来に明るいビジョンを持たない農業に見切りをつけて出てゆく人達なのである。

こういうなかにあつて秋田県平鹿郡大森町に住む明野芳雄君は明るい合理的な農業経営を  
めざし、自分なりの理想郷を築いてみよう。そして農村青少年の心のよりどころにしてみせ  
ようと、今は亡きお父さんから山林をわけてもらい、里から遠く離れたところでひとりぼっ  
ちの開拓をはじめました。そして五年、牧場も三ヘクタールまで広がり、青々とした牧草は  
みごとにえそろいました。そして真白い壁のモダンな家も昨年完成。

電気もひかれ、テレビも入り、このひとりぼっちの若い孤独は開拓者をなぐさめてくれま  
す。今までの苦しみは夢をどんどん実現してきました。

明野君の理想郷の出来あがるのもまちかなことでしょう。

609 Feet

357 F

252 F

製作  
配給

中 部 日 本 新 聞  
北 陸 中 日 新 聞

東 京 中 日 新 聞 社  
中 日 映 画 社  
中 日 映 画 社